

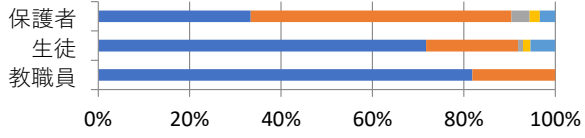
令和5年度 学校評価

■ そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思わない
 ■ そう思わない
 ■ わからない

①いのちを大切にする心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

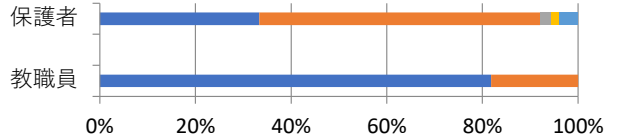
1 一人一人の児童生徒の尊重

学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。



2 道徳・心の教育の充実

学校は、豊かな人間性を育む心の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）

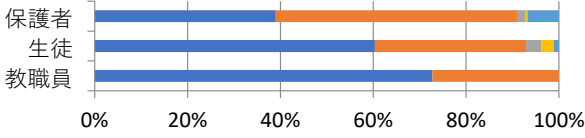


一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応については、「そう思う」教職員が約12%、児童が約5%増加している。校外の人権教育研修を通して、教職員の人権意識が高まり児童の日々の指導に生かされていると考えられる。一方で、保護者は昨年度とほぼ同じで、保護者との連携をさらに深めていくとともに、教職員が保護者の思いにさらに寄り添った指導が必要と考えられる。道徳・心の教育の充実では教職員の肯定的回答の合計は100%であった。それに対して、保護者の「そう思う」の割合は昨年と同様に40%を切っているので、保護者への啓発活動をさらに取り組む必要がある。

②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

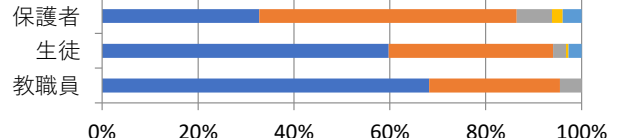
3 授業力向上

先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。



4 タブレット端末活用

子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。

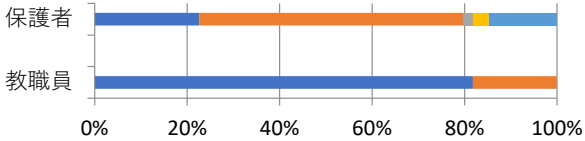


授業力の向上については、昨年同様、3者とも肯定的回答の割合が増えている。また、児童のそう思うの割合が少し増えている。これは、地域人材の活用、体験の重視など子ども主体の学習を目指して研究を進めた成果であると考えられる。タブレット端末活用については、昨年度と比べ、割合はあまり変化はないが、授業の導入、展開、終末などの場面でも有効的に活用できていた。特に、文字を書くことに苦手意識がある児童は、タブレットを活用することで自分の考えを表現するのにも有効だったと考える。

③教員が子どもと向き合うための体制の整備

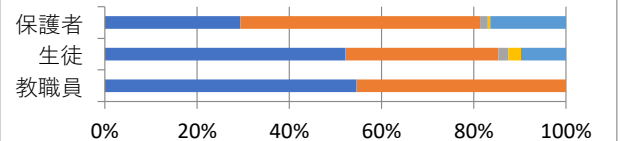
5 学校の支援体制

学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。



6 共生社会を担う人材の育成

学校が行っている「交流及び共同学習」等は、相互理解につながっていると思いますか。



支援を必要とする子どもについて情報を共有し、全職員で関わるよう努めるとともに、支援を必要な学級を把握し、計画的に学級支援員が入るようとした。学級支援員が一人しかいないため、昨年度より支援できる時間が少なくなったことも保護者の肯定的回答の減少と関連しているのではないかと考察される。「交流および共同学習」の目的や意義、共生社会を担う人材育成の必要性を知らせるための啓発活動が十分できていないことが、「わからない」という回答につながっていると考えられる。道徳や学級活動での障がい者の人権についての学習や保護者への啓発活動をより充実させていきたい。

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

7 安全と事故防止	8 家庭や地域との連携協力
学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。	学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。
<p>保護者 生徒 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>	<p>保護者 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
<p>児童への直接指導が安全教育の実施の実感につながっていると考え、地域での過ごし方に関して危険な行動の指摘が数回あった。地域での安全な過ごし方を保護者と協力して指導する必要があると考える。家庭や地域との連携においては、学習や学校行事、地域の行事等に積極的に連携を図ってきたことで、教職員の「そう思う」が増えている。また保護者においては否定的な割合が減っている。</p>	

⑤ 本校の教育

9 あいさつ	10 学習のきまり
子どもは、進んであいさつをしていると思いますか。	子どもは、「壺川小の学習」（学習のきまり）を身に付けていると思いますか。
<p>保護者 生徒 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>	<p>保護者 生徒 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
<p>あいさつに関しては、昨年同様、教職員や保護者よりも児童自身が進んで挨拶をしていると思っている。学校の取り組みとして、生活安全委員会を中心にあいさつ名人を発表したり、心かがやけ月間でクラスごとにあいさつ運動に取り組んだりすることで、あいさつに関する児童の意識を高めている。その意識を大切にして、今後もさらに取り組みを進めていきたい。学習のきまりに関しては、昨年度に比べて教職員の肯定的評価の割合が高くなっているのに対して、児童や保護者の数値はあまり変化がなかった。教職員が意識して取り組んでいることや、児童が守られているきまりについて積極的に児童や保護者に伝えていく必要がある。</p>	

⑤ 本校の教育

11 健康なくらし
子どもは、食事や睡眠をしっかりとり、外で元気よく遊んでいると思いますか。
<p>保護者 生徒 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
<p>睡眠や食事に気を配ってほしい家庭も見受けられるが、概ね良い生活習慣の家庭が多い。保護者や児童に、睡眠や食事、外遊びの大切さを意識してもらう機会を時々もつことが大切と思われる。(生活の振り返りカードなど)休み時間に外で元気に遊んでいる児童は多いが、運動場が狭く、走ったりボールを投げたりするスペースに限りがあるため、遊び方も限られている。今年度は、体力テストの結果において持久力の低下が見られたため、委員会活動等を通して、楽しく走る遊びを提案し、体を動かす機会を提供していきたいと思う。</p>

来年度の具体的な取組について

○校内の支援体制は、ケース会議等を必要に応じて開催し、外部機関ともつながりながら具体的に進めてきたことを継続していきたい。このような学校の取り組む姿勢を保護者にも積極的に知らせ、お互いに協力しながら、児童の支援ができるよに進めていく。

○「あいさつ」に関しては、相手意識を大切にすることを共通理解していきたい。そのために、これまで行っている児童主体のあいさつ運動を継続させ、日頃のあいさつにも活かされるよう取り組み、定期的に振り返る場面を設けるようにする。

○地域や家庭、友達など人との「つながり」を大切に取れくんできたことで、学習面や生活面で児童のよりよい態度が見られるようになった。来年度も取り組みを工夫しながら継続していきたい。

学校関係者評価

○1年生から6年生児童の学習の様子を観て、生き生きと授業に参加している姿が印象的だった。先生方も楽しそうに授業をされており、お互いのよい人間関係づくりが今の落ち着いた生活につながっていると思う。

○学校評価の数字にも表れているように、すばらしい学校づくりが行われている。特に、地域との連携を大切にしたい授業づくりが学力向上にもつながっている。この頑張りを、もっと保護者へも知らせながら、さらに「つながり」が深まっていくことを期待している。

○先生方が、一人ひとりにあつた支援を工夫されている。そのきめ細やかな指導により、児童も笑顔になり、そして保護者も安心して学校に通わせられているのだと感じた。

○地域でのあいさつは、よくできていると思っている。なかなかあいさつができない子も、続けて声をかけると返してくれるようになるので、何事も根気強く行うことが大事だと感じている。